

令和5年度 第3回 神奈川県立二宮高等学校学校運営協議会 議事録

日時 令和6年3月11日(月) 15:00~16:20
会場 神奈川県立二宮高等学校(南棟2階 会議室)
議長 会長
司会 副校長

参加者

委員

山本 正博	地域代表・緑が丘地区長	欠席
関口 正美	地域代表・一色地区長	
中西 美保	二宮町立一色小学校 校長	
藤田 和人	二宮町立二宮西中学校 校長	欠席
杉崎 雅子	学識経験者・小田原短期大学	保育学科准教授
椎野 文彦	二宮町教育委員会 教育部長	欠席
二見 敏夫	選挙管理委員会・二宮高等学校同窓会会長	
巻上 浩昭	二宮高等学校 PTA会長	
猪俣 聡	二宮高等学校 校長	

学校

副校長	神野 伸	
教頭	武田 素行	
事務長	佐藤 直広	
総括教諭(学習支援G)	神谷 雅彦	
総括教諭(生徒支援G)	小山 健太郎	
総括教諭(学校管理G)	山口 卓	
総括教諭(進路支援G)	浦井 進	
総括教諭(生活指導G)	山崎 勇	欠席
教諭(インクルーシブ教育推進G)	飯川 裕太	
事務局(学校管理G)	磯崎 幸彦	
	坂元 孝子	

次第

- 1 会長挨拶
- 2 校長挨拶
- 3 議事

(1) 各グループより年度末報告(資料P6~18)

・学習支援グループ(資料P6~8)

1年間の活動報告

現在、1・2年生の成績処理に専念している。

年間を通じて計画に沿った活動ができた。

・生徒支援グループ（資料P9～10）

学校説明会を本校で実施した。

生徒による活動発表を通じて生き生きとした生徒の姿を見せることができた。

コロナが明けイベント等、生徒活動の場が増加し外部との交流が増えた。

清掃活動等、お世話になっている地域への貢献活動も実施できた。

生徒の気持ちの表れとして募金活動では昨年より多く集まった。

球技大会で誰にでも参加できる「ポッチャ」を導入し好評であった。

次年度は部活体験を実施し部活の強化を進めたい。

ボランティア活動を通じて小中学生との交流を深めたい。

・進路支援グループ（資料P11～12）

進学を主眼に置いて本人の希望を叶えられるよう継続的に指導している。

社会に貢献できる生徒を目指して、学校全体で取り組んでいる。

指定校の枠が300を超えている。

大学65名 短大13名 専門学校72名 就職30名の進路が決定している。

就職の求人が増加し3月になっても求人がある。

8名の進学準備、16名の進路未定者がいる。

進路希望に応じた上級学校、企業訪問を実施したい。

・学校管理グループ（資料P13～14）

防災訓練で住所地別に生徒を集め危険情報を共有することができた。

P T A地区大会でコロナ後のP T A活動の在り方を発表できた。

・生活指導グループ（資料P15～16）

問題行動を起こさないよう、きめ細やかな指導をしてきた。

サポートドックの活用によって声を上げることができない生徒にアプローチして指導を行った。

スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの来校が月2回から週1回になり相談しやすくなった。

・インクルーシブ教育推進グループ（資料P17～18）

2期生が卒業し、指導の環境が整いつつある。

教員研修で卒業生が堂々と職場報告を行い生徒の成長を感じた。

人とのかかわり方、理解方法を身につけさせたい。

(2) 令和5年度 学校評価報告書 評価と改善について（副校長より説明）

1 教育課程・学習指導

取り組みの成果として入学希望者が増加した。

授業評価のコメントにより生徒の声をとりあげ教員のスキルの向上に役立てることができた。

学習端末の活用を促進する。

キャリア科目担当を多くの教員ができるよう教材の充実と創意工夫をする。

2 生徒指導・支援

文化祭は天候に恵まれず生徒の満足度が低かった。
部活動体験デーを行い興味の増進につなげる。
相模人形部の活動を組織的に盛り上げる。

3 進路指導・支援

進路未定生徒が増加した。
連携生徒の障がい者雇用が実現した。
生徒相談・個別指導を通じて進路の実現を支援する。
職業観を育てるためインターシップを充実する。
進路指導の充実のため情報機器の活用を図る。

4 地域等との協働

地域清掃を通じて地域に貢献できた。
「ガラスのうさぎ」折鶴活動で地元の小中学生と一緒に活動できた。
コロナが明け多くの再開されたイベントに参加、協力をする。

5 学校管理・学校運営

D I G（災害図上訓練）により防災意識を高めることができた。
美化意識を高め、分別を徹底しごみの減量を目指す。

（3）質疑応答・発言

問 相模人形部活動をどのように組織的に盛り上げるのか。

回答 部員の人数が少ないので、委員会活動の委員によってサポートをし、かかわる人数を増やします。

問 登校時等の服装指導どうしているか。

回答 女子の制服としてスラックスを用意してあるが、今後、多様性の一環として男女ではなく制服を自由に選べるようにしている。

問 全員が上級学校を訪問することで進路選択のきっかけになるのではないか。

回答 早い時期に進路を決定している生徒が増えているので、大学だけでなく企業訪問を計画している。

問 サポートドックの結果をどう活用しているか。

回答 担任、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを交え、気になる生徒とノーマークの生徒を取り上げ指導している。
各段階で見えていなかった生徒を発見できてよかった。

問 授業評価の自由記載の内容とその対応どうしているか。

回答 素直な感想を伝えてくれる生徒が多くいる。
主に授業の進め方等、教員毎の違いに戸惑う意見がある。
個々の内容を教員に伝え、フィードバックに努めている。

問 教員の働き方改革はどうなっているか。

回答 仕事内容の把握、定量化は難しいが声をかけながら平均化を進めている。

問 男女差別に対する予防的対策はどうしているか

回答 ジェンダーレスの視点を持って、生徒が安心して生活ができるようにしていきたい。

4 その他

副校長より

4年間の目標に向けた活動が今年度で終了します。来年度からの新たな目標は次年度第1回の学校運営協議会に報告します。